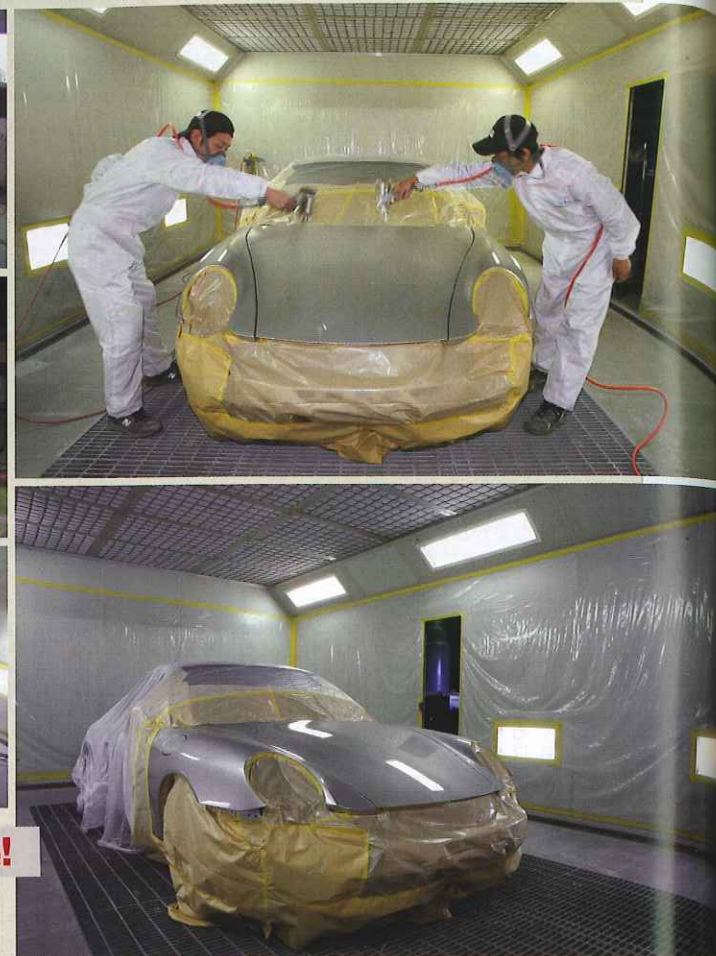




パテを盛っては細かい部分の精度を徐々に上げて行くという作業の繰り返し…その結果!

**仕上がりの素晴らしさは写真を見ればお分かりでしょ!
ペイントは塗料とガラスの専門メーカーPPG社製の物**

パテを盛っては細かい部分の精度を徐々に上げて行くという作業の繰り返しだが、そういった地味な作業が最終的な仕上がりを決定する。今回はPPGのペイントを使用するため、パテもサフェーサーもPPG製を使用した。中村さんはもうパテを限界まで使用しているため、これ以上精度を上げることは出来ないと口惜しがっていたが、周囲の映り込みをご覧になっていただければ、その仕上がりの素晴らしさはご理解いただけるだろう。しかし、このフェンダーやバンパーは出来上がってすぐに取り外されてしまう運



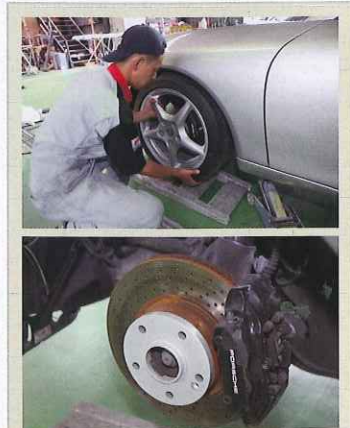
命にある。この996.5を量産キット化するには、これを外してオス型にしなければならないからだ。この企画をバックアップしていただいた鈴木敏春事務も、「なんとかこれはこのままに残せればよかったんですけどね」と残念がるが、ひとつのメス型からは本製品が40個程度しか取れないため、その後もオス型として保管する必要があるのだという。しかし、これから型取りしたフェンダーであれば、さらにそこから精度を高めて行くことが可能なので、鉄のフェンダーと同レベルの仕上がりが期待できるそうだ。

日栄自動車スタッフ総出の仕上げ!



感動的ですからある996.5化計画最終段階

なんとかペイントも終了し、別々にペイントされていたバンパーやサイドステップを装着する。日栄自動車の若手スタッフが総出(?)で作業を行ってくれた。この取材に間に合わせるために、みんなで頑張ってくれたのだ。やはり最後にヘッドライトを装着する瞬間は感動的だった。ちなみにこのクルマの写真を撮影したときにはまだ塗ったままの状態であり、特に磨きなどをかけた状態ではない。このままバラされてしまう運命なので、フロント側のナンバープレートステーは装着しなかった。



**足元の迫力を出すため
17から18インチへ
フロント15mm、リア7mmの
スペーサーを使用**

ホイールは996純正の17インチから、997純正の18インチ(BBS製)に変更することにした。タイヤもナンカンからコンチのスポーツコンタクト2へとグレードアップだ。フロントには15mm、リアには7mmのH&R製スペーサーを使用して装着している。もちろんボルトもロングボルトに交換した。

**ついに完成ポルシェ996.5
誰が見ても996とは思えない!**
ちよつとした冗談から始まったこの企画、つまり996の顔だけを997仕様にすると名付けて「996.5化計画」も、プロジェクトのスタートから3カ月で、ついに完成の日を迎えることになった。
細かい話をする前に、とりあえずこの完成したクルマの写真を良く見て欲しい。どうだろうか? もしこのクルマが普通に路上に停めてあったら、あなたはこれが996であると見破ることが出来るだろうか? 少なくとも私には出来ない。もちろん今回の企画をスタート時点から知っていたので、996と997の微妙な違いも分かっているが、もしそうでなかったら本物の997と並べてあっても、年式による違いだと思ってしまうことだろう。
先月は撮影のために急遽マッドプラックに塗装されることになったが、今

ド初期モデル[98年式] 過走行ポルシェ996

996リフレッシュ計画もついに今月で終了。後半戦は「996.5化計画」という大プロジェクトをブチ上げ、この計画に携わるスタッフ全員が力を合わせて見事完成した。どこから見てもポルシェ997顔になったポルシェ996。その完成した姿をたっぷりお見せいたしましょう。

文●半谷範一 撮影●森口信之、南日栄自動車商会
取材協力●(株)スピードジャパン TEL:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp>
(南)日栄自動車商会 TEL:024-534-9680 <http://auto.jocar.jp/nichiei/>

ポルシェ
996
リフレッシュ
Refresh
計画

最終回

996.5化計画大成功!





サービホールを設けて、センター部分には997と同様に金網を装着するという方法も検討している。

996と997ではヘッドライトの傾斜角度が微妙に異なっているため、装着時に光軸がちゃんと取れるのか心配だったが、それに関しては全然問題ないという。

前回の比較で、996用の純正17インチホイールでは、ホイール周りの視覚的なイメージが想像以上に弱いということが判明した。比較用のクルマがオプションの19インチを履いていたこともあり、余計にそのギャップが強調されて見えてしまった。そこで今回は997用の純正18インチホイールを装着してみることにした。現物が手元にない状態でスペーサーの幅を決めなくてはならなかったため、実際に装着するまでは一抹の不安があったが、実際にはこの写真の通り。最初から計算していたかのような絶妙なフィッティングとすることができた。

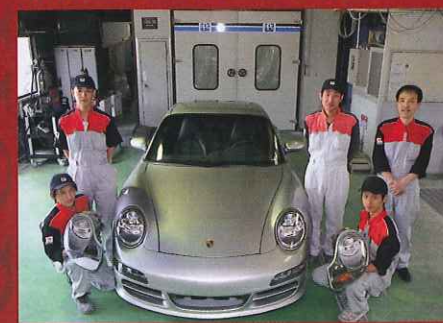
せっかく出来たばかりなのに非常にもったいない話なのだが、実は写真の996.5は現在すでにこの写真のような状態ではなくなっている。この撮影の直後、次のステップである量産キット化のために再び分解されてしまうことになったからだ。

今回をもって、一応この996.5化計画は完結ということにする。しかし、このクルマのキット化に関してはここから本格的なスタートだ。スピードジャパンでは、このキットが完成したら、今度はそれを装着した状態で完成させてデモカーにするということなので、その時には再度誌面に登場してもらおうことにしよう。

キット化、そして販売予定は？

本文中にも書いた通り、スピードジャパンではこの996.5仕様のキット化を決定した。現在はこのクルマから再びフェンダーやバンパーを取り外し、それをオス型にしてFRP用のメス型を製作している段階だ。恐らく読者の皆さんが一番気になる問題は、「いくらで販売されるのか？」という点だろう。残念ながらこの取材時にはまだ価格は決定していなかったが、この本が店頭書店に並ぶ頃にはもう少し計画も進んでいるはず。灯火類に関しては、やはり997用の純正パーツをそのまま流用したのでは非常に高価になってしまうため、より割安に購入できるスピードジャパンのオリジナルパーツが用意できないか検討している段階だ。もしこれがある程度ヒットしてくれば、さらにGT3仕様などのバリエーションを追加することができるかもしれない。

有限会社日栄自動車商会



通常の仕事の合間にコツコツと作業し、入庫から3ヵ月を要して完成したポルシェ996.5とスタッフの皆様の。職人と呼ぶに相応しい腕と知識と経験を持つメンツが揃っていたからこそ、996.5は完成したのだ。本当にありがとうございました。



ショップ：有限会社日栄自動車商会
住所：〒960-8076 福島県福島市上野寺字東18番地の4
TEL：024-534-9680
FAX：024-535-2710
営業時間：8:30～19:30
e-mail: nichieij@isis.ocn.ne.jp
HP: http://auto.jocar.jp/nichiei/

リアの違いは問題にさせ～ん!!



スペーサーでツライチにした足元にも注目ですよ!

ヘッドライトは何の違和感もなくきれいに収まった。光軸の調整に関しても特に問題はないという。ご覧のようにテールレンズのデザインは997とは大きく異なっているが、996と997のテールレンズの違いなどまでちゃんと覚えていて人は、果たしてこの世にどの程度いるのだろうか？ 大規模な加工を行えばテールレンズも997仕様にするのが不可能ではないだろうが、別に997の完全なレプリカを目指しているというわけでもない。さすがにそこまでコストを掛ける意味は希薄だと思う。やはりホイールを変更し、さらにスペーサーでツライチの状態にしたことは大きく効いていることがわかるはず。これなら前回の比較時のように足元が貧弱といった印象を受けることもないだろう。

上の赤いクルマが本物の997で下のシルバーが本物(笑)の996.5



フロントが壊れた996を買いこの996.5のキットを装着すると格安で997の出来上がり!

すでにお分りとは思いますが、上が本物の997で下が今回製作した996.5だ。こうやって並べてみても違和感が無さ過ぎて、かえってその努力の跡が見えないのが残念な気がするほど。フロントバンパーの形状はオリジナルの997とは若干異なっているのですが、このエウルさんのサイドステップがあった方がより自然に見える気がする。この997用18インチホイールは現状ではただ装着しただけの状態であり、実際に普通に公道を走行するためには、改めて走行時にどこにも接触しないことを確認する必要がある。

月あはの状態からさらに細部を仕上げ直して精度を高め、フェンダーもバンパーもボディカラーと同じシルバーにペイントして仕上げています。

今回使用したペイントはアメリカに本拠を置く塗料とガラスの専門メーカー、PPG社製の物。最近ではフェラリが純正指定塗料として採用していることでも知られているメーカーだ。もちろん日栄自動車では国産の塗料も使用しているし、国産の塗料を使用してもこのレベルの塗装は可能ということだった。しかし、やはり輸入車の塗装に国産塗料を使うことに抵抗を感じるお客さんが少なくないことや、PPGではクリアに10年以上の保証がつく点など、コストに見合った内容を持っていることを考慮して、今回は割高になることを承知の上でPPGを使用することにしたという。

中村英幸さんによると、今回の下地を作るためには前回の状態からさらに2回全面にパテをのせているという。前回のようなマットブラックでは微妙な歪みが分かっていくので、サフェーサーを塗って歪みをつぶして行くという、地味だが根気のいる作業が必要だったという。また前回の比較写真では取り付けていなかったが、今回はガレージ・エウルさんから提供いただいたサイドステップも装着している。

本来997のグリルには金網が付くが、このクルマでは装着しなかった。バンパーに装着されているフォグランプは、このグリルの開口部から手を入れて内側にあるロックを解除し、前方に取り出すという構造になっているからだ。今後、この部分をどう処理するか未定だが、左右のダクト内に小さな

